

□■レポート■□

第45回大気環境学会年会併設全国環境研協議会・ 大気環境学会合同特別集会を終えて

第45回大気環境学会年会は、平成16年10月20日(水)～22日(金)の日程で、秋田市文化会館・秋田県生涯教育センターの2会場で開催された。全国環境研協議会で例年実施している特別集会は今回で22回目になり、秋田県のご協力により年会最終日の10月22日(金)に秋田市文化会館小ホールで開催することができた。

秋田での年会開催は第22回年会(1981年)以来23年ぶり2回目であり、前回と同じ会場で開催された。

今回の集会では「PMに関する最近の話題」をテーマに、講演と討論を設定した。

集会の内容を以下に示す。

主催：全国環境研協議会・大気環境学会

日時：平成16年10月22日(金) 13:00～15:00

会場：秋田市文化会館小ホール

課題：PMに関する最近の話題

演題：

- 1) 「ディーゼル車規制でPMは減少したのか」
石井康一郎(東京都環境科学研究所)
- 2) 「日本に及ぼす黄砂の影響」
多田納 力(鳥根県保健環境科学研究所)
- 3) 「PM2.5に関する現状と課題」
内藤 季和(千葉県環境研究センター)
- 4) 総合討論

座長 茨城県公害技術センター 友部 正志
年会期間中は天候には比較的恵まれたが、特別集会当日午前中に一時天候が悪化したものの、終了時には回復していた。特別集会在5テーマあり、比較的似かよったテーマもあったが、関心が高く約60名程度の参加者があった。

講演内容は、最初に東京都の石井先生から「ディーゼル車規制でPMは減少したのか」と題し、昨年10月から東京都近郊で実施されているディーゼル車PM規制の効果について、自動車専用道路トンネル内で実証した結果を紹介していただいた。対策1カ月後の調査研究であるが、DEP

中ECの排出係数が顕著に低下しており、短期間でも規制効果が現れたといえる。ただ1カ所の調査結果であり、広域的にはどうか、長期的にはどうかは今後の課題とコメントをいただいた。

つぎに多田納先生から、「日本に及ぼす黄砂の影響」について、鳥根県が取り組んでいる中国との共同研究の成果などをふまえ、講演していただいた。鳥根県は地理的にも気象条件からも黄砂の影響を受けやすく、黄砂に関する多くの知見が得られている。研究の成果として黄砂はAl、Caを多く含み、 $nss-Ca^{2+}$ が指標成分となることが確認され、黄砂現象時には粗大粒子の存在比率が高くなることなどを紹介していただいた。

黄砂現象は地域によりPM沈着量が無視できない状況にあり、他の自治体にも大いに役立つ情報をご提供いただけた。

つぎに内藤先生からは「PM2.5に関する現状と課題」と題し、最近話題の多いPM2.5の測定法、環境基準設定の見直しなどについて講演いただいた。PM2.5の測定は機種により差があり、健康影響がまだ明確になっていないため、今後の見直しは不透明の状況にある。今回は関東地方の共同研究の成果をもとに、道路沿道での実態もご紹介していただいた。

いずれのご講演もタイムリーな内容であり、他の自治体にとっても参考になる情報提供をいただけた。

総合討論では、今後の取り組みについて、いくつかのご提案がいただけた。会場からの要望もあり、全国環境研協議会からの環境省、国立環境研究所への共同研究の提案など、今後関係者の積極的な取り組みの必要性が再認識された。

最後に、今回の集会の開催にあたり、会場の手配をいただいた秋田県の方々、ご講演の依頼に快くお引き受けいただいた石井先生、多田納先生、内藤先生、集会運営に協力していただいた大気環境学会関係の方々に御礼申し上げます。